


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 病棟等更新築整備
2. 病棟移転
(3病棟→12病棟)
3. 画像センター開設



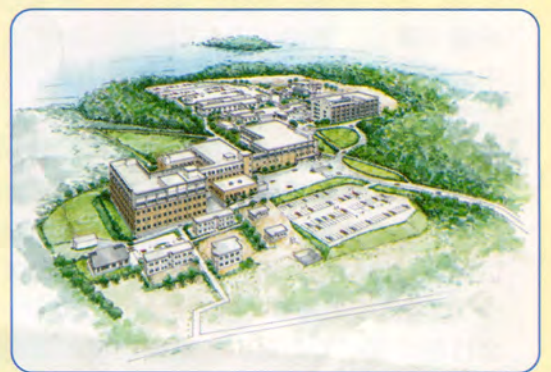
病棟等更新築整備について

昨年度より設計を行っていた病棟等更新築整備ですが、去る5月初旬に入札・契約を完了し着工いたしました。当該整備では、主に①12病棟改修工事、②新機能訓練棟新築工事、③新重心病棟新築工事(鳥取県立白兔養護学校訪問学級整備工事)、④霊安解剖棟新築工事、⑤医療観察法病棟新築工事、⑥9病棟改修工事を実施することとしており、最終工期は平成25年3月までとしております。

この整備工事に先立ち、去る平成23年6月8日(水)10:30から、鳥取県福祉保健部子ども発達支援課長山本伸一様、鳥取県重症心身障害児(者)を守る会会長中原正様及び鳥取医療センター重症心身障害児(者)保護者会会長地西勝子様を来賓としてお呼びして、また発注主は当院と鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課及び鳥取県白兔養護学校とで安全祈願祭を執り行いました。当日は晴天に恵まれ、斎主三津神社宇田川宮司のもと、修祓、降神、献饌、祝詞奏上、清祓、刈初めの儀、穿初めの儀、斎主鎮物埋納の儀、鎮物鎮定の儀、玉串奉奠、撤饌、昇神、院長挨拶と滞りなく執り行われました。

前述した工事の内12病棟改修工事については、この度平成23年8月2日に完成検査を終え工事業者より引渡しを受けました。

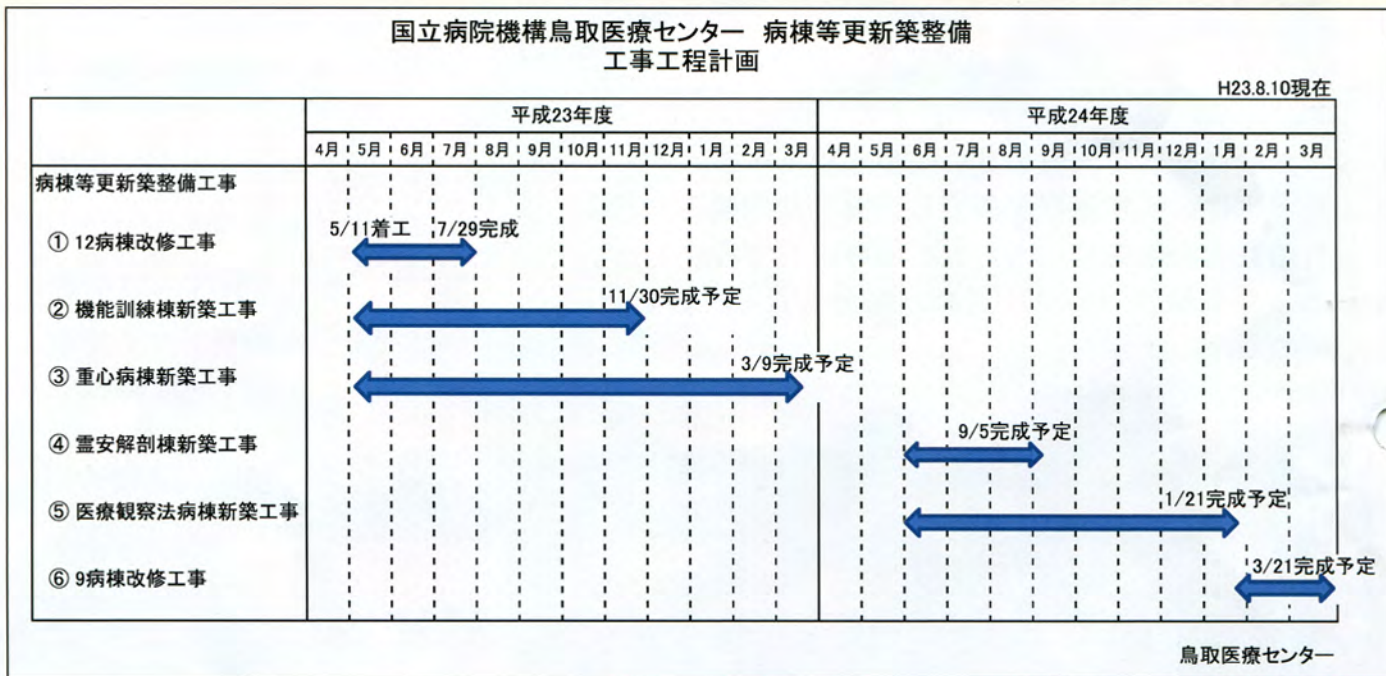
(2面へつづく)



(1面よりのつづき) この12病棟改修工事後は、新機能訓練棟を平成23年11月、新重心病棟(鳥取県白兔養護学校訪問学級)を平成24年3月、霊安解剖棟を平成24年9月、医療観察法病棟を平成25年1月、9病棟改修を平成25年3月に完成させるべく工事を進めていくこととしています。

工事期間中は、駐車場の減少を始め、重機等の院内走行・音や埃の発生など、皆様には何かとご不便・ご迷惑をおかけすることとなりますが、当院の診療機能等充実のためご協力よろしく申し上げます。

業務班長 小林 英樹



● リハビリセンター開棟に向けた病棟移転を終えて ●

12病棟看護師長 金岡 宏美

8月9日の移転日に向け、病棟スタッフとともに、忙しい通常業務と平行しながら、何度も何度も計画を練り直し、夢の中でも引っ越しをする日々が続く中、緊張しながら当日を迎えました。

そして、8月8日・9日猛暑の中、病棟の移転を行いました。患者様の移送に関しては、個々の状態に合わせた移動手段・順番を決め、ご家族の協力のもと荷物の整理を行うなど安全な移動ができるように配慮しました。院内スタッフ協力者は2日間で延べ132名にもものぼり、強力なバックアップのおかげで全行程のすべてにおいて順調に進めることができました。

3病棟から12病棟への道のりは院内と言っても大変遠く、何度も何度も往復するスタッフは皆汗だくでした。

移転後数日経過した現在、まだまだ戸惑うこともしばしばですが、患者様は広くてキレイな病棟にニコニコです。私たち病棟スタッフも、心機一転、患者様が快適で元気にリハビリができるよう、真心をこめて看護に励みたいと思います。

移転にあたり協力してくださった患者様、ご家族の皆様、院内スタッフの方々、本当にありがとうございました。



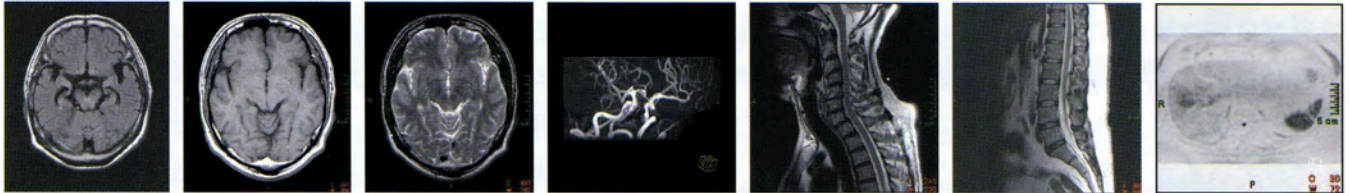
● 画像センター開設 ●

放射線科 医長 三島 一也

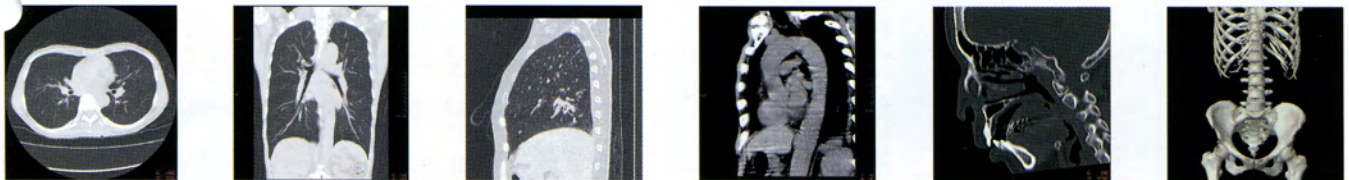
2011年7月に『鳥取医療画像センター』を開設いたしました。

これは当院のMRI及びCTを地域に広く公開し、医療連携を図りながら開業医の先生方に利用していただき最新の画像診断の情報を迅速正確をモットーとして実施することとしています。また、多くの患者様やそのご家族に利便性を図ることで地域医療に努めたいと考えております。

MRI画像



CT画像



【予約】

① 予約申し込み表をFAX

地域連携室宛
受付時間8:30~17:15
CD-Rかフィルムを選択

開業医様

② 予約日時を返信

予約申込書に日時を記入し通知
患者様用の通知書及び注意書きも返信

NHO 鳥取医療センター 地域連携室
【FAX】 0857-59-1493
【TEL】 0857-59-0892 (内線540)

【当日】

患者様

① 来院後CT・MRI撮影

受け付けは医事窓口

NHO 鳥取医療センター 放射線科

② 撮影後保存媒体を渡す
保存媒体 CD-ROMか
フィルム

患者様

④ 読影結果を郵送
お急ぎの場合はFAX可

③ 保存媒体を渡す

開業医様



● 第2回宿泊研修について ●

副院長 助川 鶴平

21世紀の現在では医療はサービス業として位置づけられています。この時代の変化を受けて当院では昨年度から接遇をテーマとした宿泊研修を開始しました。

今年は6月4日から5日、レーク大樹にて新任のスタッフを対象に研修を行いました。一般に外部への接遇が良い職場は職員の仕事に対する満足度が高いと言われています。外部への接遇と内部での働きやすさの共通点は、対人的コミュニケーションがうまくできているか、否か、ということにあります。従って、今年のテーマは「生き生きとした職場作り」と致しました。

1日目午後の前半は近藤看護部長の説明の後、元林副看護部長、田中医療安全管理係長および塩治主任児童指導員を中心にコミュニケーション技法について二つの実習を行いました。何れの実習でも普段私たちが何気なく使っている言葉が、如何に不十分な情報しか伝達できないものかと思い知らされ、相

手の知識や理解力をよく知って適切な方法で伝達する事の大切さがよく分かりました。この日の後半は、各班に分かれて実習についての感想を話し合い、夜は意見交換会です。意見交換会はコミュニケーションの実践の場ですから、ある意味ではこれが一番実りある実習であったかもしれません。2日目は、班毎に「生き生きとした職場作り」について話し合い、それを発表し討議しました。

宿泊研修という形で、普段よりも一つ踏み込んだ交流の機会を持たたことは大いに価値あることだと思います。多くの参加者は職場内でのコミュニケーションのみならず、利用者の方々との関係をより円滑なものとするためのヒントを得て、胸を張ってレーク大樹を後にする事が出来ました。

今年度はさらにもう一回このような研修を行おうと考えております。

これまで参加したことのない職員の皆さんは是非ご参加下さい。



●「第2回鳥取医療センター宿泊研修」に参加して●

2病棟看護師 木谷仁美

平成23年6月4日レーク大樹にて私達は、『接遇の向上から生き生きとした職場環境づくりを目指す』を目的に1泊2日の宿泊研修を行いました。1日目の研修では、看護部長からの講義、またグループワークを導入し伝言ゲームを行い、その中での気づきを意見交換しました。グループの意見交換では、伝言ゲームを通して人に何かを伝えることの難しさや復唱、メモをとることの大切さを再確認させられる意見が多くあり、日常の業務の中でも心がけていかなければいけないと思いました。また、グループワークでは普段は接する機会の少ない職種の方たちもおられるのように1つのテーマについて話し合えば良いのかと思いましたが、そのような時にこそ主体的に参加すること、自分の意見を言えること、また聞く姿勢を持ち相手の意見を否定しないことが大事であると学びました。2日目の意見交換では日ごろのコミュニ

ケーションについて振り返り、日々個々で努力していくことを宣言シートに書き発表しました。

様々な意見が出た中で、私は、『笑顔であいさつする』ということをはっきりとしようと思いました。なぜなら同職種、他職種、患者様またご家族の方など多くの人と関わる機会が多いので最初の印象が大切だと感じ、笑顔であいさつすることが最初のコミュニケーションの始まりになるのではないかと考えたからです。その日の夜は世代、職種を超え親睦会を行い様々な方々と出会いを楽しむことができ少しでも打ち解けられた気がしました。2日間の研修を通して他職種の方と接遇という同じテーマについて意見交換ができ、個々で目標を持つことも出来ました。今後多くの人との出会いを、あいさつをすることで広がるように頑張りたいと思います。



● 看護の心を、看護の素晴らしさを伝えよう 看護の日の行事 ●

看護師長 尾方 三月

鳥取医療センターでは、毎年看護部が主催で「看護の日」の行事をナイチンゲール生誕日の5月に行っています。行事の目的は「看護の心を、看護の素晴らしさを」多くの方に知っていただくことと、鳥取医療センターをひとりでも多くの方に知っていただき、患者数の増加や、看護師募集につなげることです。活動の内容として院内行事、院外行事を行いました。

院内行事としては

“わたしのお母さん・お父さんは看護師さん”のタイトルで看護職員の就学前のお子さんを対象に絵画を描いてもらいました。準備期間は短かったのですが39枚の絵画が集まり院内売店の廊下に掲示しました。描いたお子さんや病院内の職員や面会の方々に絵画の前で足を止めて見ていただきました。毎年描いているお子さんは成長の跡が見えるようでした。

入院中の患者さんには、受け持ち看護師が患者さん個別にメッセージカードを作成し5月12日の看護の日に手渡しました。



院外行事としては

5月7日(土)鳥取市内の家電量販店の店外のスペースで行いました。

看護の日行事委員を主に院内ボランティアを募集し、看護部、医師、薬剤師、放射線技師、栄養士、検査技師、事務職員を含む31名の協力を得て実施できました。

当日は、五月晴れとは行かず、曇り空の中病院を出発前に委員全員で記念写真を撮り物品の最終確認をして出発しました。会場は開店前で車や人通りが少なく、準備するには良い条件でした。テント2張りを実行委員と男性職員が音頭をとり、全員で強風の中無事、スムーズに設営が出来ました。事前に昨年の資料でイメージトレーニングが出来ていた結果でしょう。



行事の内容は身長・体重・体脂肪測定、血圧測定、機器を使ったストレスチェック、

健康相談、栄養相談を行いました。

会場前では、看護の日ミニカード・病院名を入れた風船及びカット絆を配りイベントを紹介し来場を促しました。

来場者数は、身長・体重・体脂肪測定、血圧測定41名、健康相談6名、栄養相談1名でした。高齢の方がミニカードを手に持ち血圧測定に来ていただきました。「体重・体脂肪測定は家で測っているので、ストレスチェックをして下さい。」と言われ順番に並んでいただき実施したところ、好評でした。



「病院にはかかっていないが、この頃不眠で・・・」
と医師への相談もあり、広い年齢層の健康についての
の思いを知ることができました。また、家電量販店
の前を通行する子供連れのお客さまへは好みの色の
風船を渡し、笑顔で挨拶し看護の日ミニカード、風
船、カット絆を配布しながら鳥取医療センターを外
部の方にアピールできました。



これらの行事を通して当日出会えた方々には、「看
護の心を、看護の素晴らしさ」を知っていただけたの
ではないかと思います。



● 砂丘まで行ってきました ● ～地域移行推進員さんとの交流会を行って～

地域医療連携係長 清水 須美子

当院では、鳥取県東部総合事務所福祉保健局とタイアップし、地域移行推進事業の一環で地域移行推進員さんとの院内交流会を行っています。

今回は、鳥取県東部総合事務所福祉保健局のはからいで、無料バスの運行を鳥取医療センター経由にいただき、入院患者様3名の方が参加され砂丘まで出かけました。

前日が雨だったためオアシス広場から福部公民館に会場を変更し、地域移行推進員と一緒にボールを

使ったゲーム・紙ひこうき飛ばし・砂丘クイズをした後、お茶やお菓子をいただきながら楽しいひとときを過ごしました。日頃外出する機会がほとんどない方もありましたが、自分から「参加します」と言われての参加で、「楽しかった。良かったです。」と笑顔で言われていました。



どう折ればよく
飛ぶかな



輪をよく狙って!!
それ～。

鳥取県東部総合事務所福祉保健局では、長期入院している患者様に地域へ目を向けていただくことを目的に、平成21年3月から「地域移行推進員との交流会」を地域及び各医療機関において開催しています。

【地域移行推進員さんは何する人?】

- ・鳥取県精神障がい者地域移行支援事業 地域移行推進員養成講座を修了し、精神障がい者等について知識と理解を深めた人たちです。精神障がい者に寄り添い、一緒に歩むよき理解者です。

鳥取県東部総合事務所福祉保健局より

● 初夏のフルーツとピアノによるミニコンサート ●

1病棟看護師 松田 智子

憂うつな梅雨空の中休みで青空となり、待ちに待ったミニコンサートが6月27日に1病棟において開催されました。ボランティアで「アンサンブル・フロイデン」のフルーツ奏者森本みち子さん・長井希弥恵さんをお招きし、ワルツ・唱歌（ふるさと）演歌・懐メロ（上を向いて歩こう…他）をフルーツの音色と電子ピアノがコラボし楽しくまた「癒し」のひと時をすごす事ができました。

患者様16名（うち人工呼吸器装着7名）とご家族をお迎えし、夫婦・親子として共に楽しく過ごされ、一緒に手拍子や歌声が聞かれ、なかには涙ぐまれるご家族の方もおられ、スタッフ一同も感動を受けました。また治療を優先とし参加できなかった患者様にも、病室に入って演奏をされる等、患者様にとっては、サプライズな出来事として心に残ったことでしょう。

当病棟は長期療養を余儀なくされている患者様が多く、単調になりがちな療養生活に少しでも、「心の癒し」の手助けになればと、今回のミニコンサートを介助員・看護師とチームを組んで準備してきました。人工呼吸器を装着した患者様の移動では、安全安楽に音楽鑑賞できる場所の設定やスタッフとの事前打ち合わせなどにより無事に終えることができました。今後も患者様と家族のかたが共に過ごせ、喜んでいただけるようなイベントを計画して行きたいと考えております。



○ 感染管理認定看護師認定審査(試験)に合格して ○

感染管理認定看護師 7病棟 副看護師長 森原賀都子

私は半年間の感染管理認定看護師教育課程研修を修了し、5月の看護協会認定審査(試験)に合格、感染管理認定看護師(ICN)になることができました。

一昨年体調を崩し、夜勤ができない私に何が出来るのか?こんな私でもこの病院に役に立てることはないだろうか?と考え、体が駄目ならば勉強をして専門的知識を身につけようと思い、日頃リンクナースとして活動していく中で必要性を感じていた感染管理認定看護師を目指しました。手さぐり状態での勉強で、書店に問題集を買いに行き、なんとか大学の感染管理認定看護師教育課程に合格、半年間の研修に行くことが出来ました。

昨年から今年にかけての半年間の研修は、毎日8時半から17時半の授業(講義)でした。レオパレス生活でしたが、自炊出来たのは最初の1カ月くらいで、すぐにレポートや試験に追われる毎日で、しんどいながらも、感染の勉強のみに専念できることがありがたく、30名のクラスメイトと共に、感染についての会話も弾み楽しい研修でした。

そして、当院の感染プログラムの構築にむけて1ヶ月間は岡山医療センターで実習を受け、半年間の研修を終える事が出来ました。今年3月研修から帰ってから試験5月までの間も30名の仲間とメールで励まし合い、自分の限界まで勉強しましたし、病棟スタッフの応援もあり、認定審査(試験)に合格することができました。

今後は、ICTメンバーと共に当院の感染対策活動に更に力を入れ感染管理認定看護師の役割が少しでも多く果たせるよう努力していきたいと思えます。

院内はもちろんのこと、院外の病院・施設など地域のリソースにさせていただきたいと思っていますので、院内外問わず気軽にお声かけいただけたらと思います。宜しくお願い致します。



○ 平成23年度 包括的暴力防止プログラム 指導者養成研修に参加して ○

9病棟看護師 高橋 晃
9病棟看護師 高井 美樹

このたび包括的暴力防止プログラム指導者養成研修に参加させて頂きました。

包括的暴力防止プログラム(以下CVPPP)については6年程前に参加した学会でその存在を知って以来、強い関心を寄せていました。しかし内容を知るほど、その理念や考え方には感銘を受けるものの、習得した技術の普及と維持が困難であるように感じ、画餅のような印象も持っていました。

精神科医療において、患者の身に起こっている現象の把握というのは非常に困難で、それ故に突発的な暴力を回避する力というのは個人で大きな隔たりがあります。疾患を軸に患者の状態を正確にアセスメントし、患者の状態に応じた介入方法で暴力行為の出現を未然に防ぐ、もしも暴力行為が出現した場合は、医療者・患者ともに安全な方法でそれを制止するといった技術は、精神科医療の中にいる者が等しく身につけておくべきものであると感じています。このプログラムの普及により、それは可能であると思えます。

このたびの研修参加によって、CVPPPの考え方・技術の普及が困難であるという思いが変わることはありませんでした。しかし、困難ではあっても、普及すべきものであるという思いは強くなったように思います。既にある当センターのトレーナー達と協力し、本プログラムの普及の一助となれるよう、今後尽力したいと思います。

7月13日 院内伝達講習会を行いました



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成23年7月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	岡田	井上	金藤	土居	
	2	下田	下田	金藤 (嚙下外来)	土居	房安	
	3	小西	房安		小西	井上	
	4				三島		
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
精神科	初診	診察室6	助川	岩田	坂本/岡田	幡	高田
		*予約制(午前中のみ)で事前の予約受付が必要になります。					
	再診	診察室1	高田	助川	土井	高田	柏木
		診察室2		坂本		助川	土井
		診察室3	岩田	幡	幡	岩田	坂本
		診察室5		池成		林	
診察室8					岡田		
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
専門外来	睡眠外来	精神科5	坂本		高田		
	神経内科(予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚙下障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害
	小児科(予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野		
				予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし		

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nistori/>